琴浦町人権・同和教育推進協議会広報紙

つながりあう ことうら

第49号　2025年３月１日　発行：琴浦町人権・同和教育推進協議会

～認めあい支え合う社会へ　一人ひとりの人権が守られる行動を～



〈部落解放月間〉



〈社会を明るくする運動〉



〈人権擁護委員の日〉


〈人権の花運動〉

― すべての人が生まれながらに、幸せに生きるための権利（人権）を持っています。 ―

琴浦町人権・同和教育推進協議会では、この一年間様々な機会をとおして、町民のみなさんに人権の大切さについて啓発を行いました。

● 広報紙に関するご意見や、ご感想をお寄せください ●

琴浦町人権・同和教育推進協議会事務局：琴浦町教育委員会　人権・同和教育課
TEL：(0858)52-1162　FAX：(0858)52-1122

特集

一人ひとりの人権が尊重されるまち"ことうら"をめざし、ここに集い学びあおう

「ことうら人権まなびの集い」開催！

12月１日（日）、「ことうら人権まなびの集い」を開催しました。コロナ禍中は、講演会のみと規模を縮小して開催していましたが、今年度は午前の部と午後の部で事業を開催し、数年ぶりの１日開催となりました。



●今年度のテーマ：「人権と平和」～すべての子どもたちに希望と笑顔を～

【午前の部】

●人 KEN まもる君、人 KEN あゆみちゃんのプラバンキーホルダー等の製作
●人形劇「はしのうえのおおかみ」（倉吉人権擁護委員協議会提供）

（製作活動）

人権イメージキャラクターの「人 KEN まもる君、人 KEN あゆみちゃん」のプラバンキーホルダー作りと、毛糸を使ったクリスマスの小物作りをしました。会場は、約70名の子どもと保護者でいっぱいになりました。町の人権擁護委員のみなさんたちに作り方を教えてもらいながら、楽しく製作に取り組みました。



可愛い作品ができました！







（人形劇）







倉吉人権擁護委員協議会のみなさんによる、人形劇「はしのうえのおおかみ」の公演を鑑賞しました。「人に親切にすることは、相手を嬉しい気持ちにさせるだけでなく、自分も嬉しい気持ちになること。」「周りの人に温かい心を持って優しく接することの大切さ。」について森の動物たちのやり取りを通して、子どもたちにわかりやすく伝わる内容でした。

【午後の部】

●オープニング　小学生解放「学習会」による手話ソング『にじ』の発表





オープニングに、赤碕文化センター小学生解放「学習会」の子どもたちが、童謡の『にじ』を手話を交えて合唱しました。子どもたちの元気な声が会場一杯に広がりました。

その後、子どもたちから『にじ』の歌詞の手話を教えてもらい、最後は会場の参加者も一緒に『にじ』の歌の手話をしました。会場が一体になり、子どもたちからは「みなさんが一緒に手話をしてくださり嬉しかった。」と喜びの声が聞かれました。

●人権講演会　「旅という火と旅からの風」～世界の子どもたちの現場から～
講師　西野（にしの）　旅峰（りょお）さん（自転車冒険家）



人権講演会では、自転車冒険家の西野旅峰さんが、世界の紛争地域の現状の中で、2017年に訪れたパレスチナ難民キャンプの１つ「ディヘイシア難民キャンプ」で暮らす人々のお話をされました。

1948年にイスラエルが建国されてから現在までの間、パレスチナは自国の領土が奪われ続けています。その結果、自分の暮らしていた家や故郷を追われたパレスチナ難民が数多く発生しました。何十年もの難民生活の中で、難民キャンプと言っても、実際には商店や学校もある１つの町のようになっています。しかし、その中の生活も決して安心して暮らせる環境ではなく、常に命の危険と隣あわせの状況です。西野さんは、難民キャンプで出会った、家族や友人が拘束されたり、殺害されたりした辛い経験を持つ人たちの話をされ、「遠く見知らぬ土地で起こっていることでも、その苦しみに寄り添おうとする日々の行動が住みやすい社会をつくることになります。他人事ではなく、彼らに思いを向けることや共感しようという姿勢が、最終的には自分事になるのだと考えています。」と思いを語られました。

2023年10月にイスラエル軍とイスラム組織ハマスの戦闘が始まってから、日本での報道等も増えましたが、それまで、両国の長い長い争いの歴史について、知らない人も多かったのではないでしょうか。西野さんのお話は大きな学びになりました。

「パレスチナ難民」の現状

※パレスチナ難民キャンプに暮らす人々（西野さん撮影）ごく当たり前の日常がここにもあります。







◇講演会終了後に、ユニセフ募金の呼びかけを行い、11,432円の募金が集まりました。
みなさま、ご協力ありがとうございました。

「性の多様性について理解を深める講演会」開催

近年、「ＬＧＢＴＱ」「セクシャル・マイノリティ（性的少数者）」という言葉を耳にすることが多くなりました。しかし、社会の理解はまだ十分ではなく、当事者の方々は様々なライフステージにおいて偏見や差別、生きづらさなどに直面しています。私たち一人ひとりが性的マイノリティに対する理解を深めるために、今年度10月に講演会を開催しました。

また、来年度から東伯中学校、赤碕中学校の制服がジェンダーレス制服にデザインが一新されるのを前に、各中学校でも生徒及び教職員向けの講演会を併せて開催しました。

演　題　「パパは女子高生だった」～自分らしく生きること～

講　師　前田（まえだ）　良（りょう）さん（Like　myself 代表）



【講師 前田　良さん】

◇町民対象講演会

開催日　10月１日（火）

会　場　赤碕地域コミュニティーセンター

◇中学生、教職員対象講演会

開催日　10月１日（火）　赤碕中学校

開催日　10月２日（水）　東伯中学校

講師の前田さんは、幼い頃から心と体の性が一致しない性同一性障がいに悩まれていました。

講演では、自分の性の違和感を乗り越え、自分らしく生きられるようになるまで、また、人生のパートナーとの出会い、２児の父となるまでの歩みを話されました。性同一性障がいの当事者の気持ちを理解する助けとなるだけでなく、誰もが自分らしく生きていいんだという、大切なことを教えてもらえる講演でした。



【町民向け講演会】



【前田良さん著書の紹介】
「パパは女子高生だった」
～女の子だったパパが最高裁で逆転勝訴してつかんだ家族のカタチ～
（明石書店出版）

※講演会でお話された内容について詳しく書かれています。



【中学校講演会】

参加者の感想をご紹介します。（10月１日町民対象講演会より一部抜粋）

◇実際に性に悩む人を目の当たりにした時、自分には何ができるのかわからなったが、その人のことを一人の人間として受け入れるだけでも力になれることがわかった。(20代 参加者)

◇男女で分けられていることが幼少期から今でもあるので、何気ない生活の中で刷り込み思い込みがされているのを感じた。一人の人として接することの大切さを改めて振り返れた。(40代 参加者)

◇「ただしっかり否定せずに受け止めてあげればいい。」という言葉が心に刺さった。誰かに打ち明けられた時、誰かが悩んでいる時、寄り添ってあげられる人になりたいと思った。(40代 参加者)

琴浦町人権・同和教育推進協議会 各部会の研修会について（報告）

【行政部会研修会】

様々な人権問題について、正しい理解と認識を深めるために、町議会議員・町職員合同の行政部会研修会を開催しました。

今回は、ハラスメントに対する正しい認識を持ち、お互いの人権を尊重し合える環境づくりを目的に「ハラスメント防止研修」を行いました。

開催日　10月24日（木）
演　題　「あなたのその行為、問題ありませんか？」
　　～他人事ではないハラスメント～
講　師　鳥取県人権文化センター
　　専任研究員　中尾（なかお）　和則（かずのり）　さん

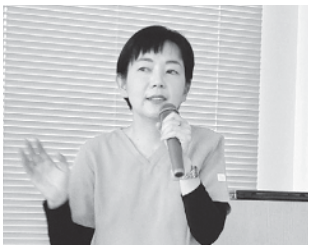

（研修会の様子）

講師の中尾さんは、「アンコシャス・バイアス（無意識の偏見）は、誰もが持っている。このことを常に念頭に置き、自分の中の偏見に気が付き、その度に修正することが必要。パワハラをしている人は自分でそのことに気が付いていないことがほとんどである。研修を繰り返し行い、多様性や差別に対する意識を高めて欲しい。」と話されました。

【社会教育部会・福祉部会合同研修会】

今年度は、社会教育部会と福祉部会が合同で「ヤングケアラー※」をテーマに研修会を開催しました。鳥取県がヤングケアラーＬＩＮＥ相談窓口を委託しているＮ.Ｋ.Ｃナーシングコアコーポレーション代表の神戸貴子さんをお招きし、実際の相談内容から、ヤングケアラーとは何か、何が問題なのかをお話いただきました。

開催日　11月25日（月）
演　題　「家のお手伝い、介護、今と昔」
　　～ヤングケアラー相談窓口から見えたこと～
講　師　Ｎ.Ｋ.Ｃナーシングコアコーポレーション
　　代表　神戸（かんべ）　貴子（たかこ）さん


（講師 神戸　貴子さん）

※ヤングケアラー・・・家族の介護、その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者。本来受けられるべき教育を受けられなかったり、学業や友人関係に支障がでるなどの問題がある。

政府広報オンライン

○参加者の感想（一部）

・ヤングケアラーの現実について学ぶことができた。「子どもが自分らしく生きることができない。」これは人権問題以外の何ものでもないと感じた。自分の近所にも該当するような子どもがいるかもしれない。地域全体で考えていかないといけない問題だと思う。

・まず、周りが気づき、それを適切な機関につなげること。本人も様々なサービス、相談窓口の存在を知ること。個人の問題だけではないことを改めて理解した。

・少子化によって子どもが介護を担っている現状がある。困ったことがあっても相談するところや情報が届いていない。身近に信頼できる大人がいないなどの現状を知ることができた。

琴浦町人権･同和教育部落懇談会(小地域懇談会)を再開しました。

新型コロナウイルス感染症が拡大した令和２年度から令和５年度まで、琴浦町では、ＴＣＣ人権啓発番組を活用し、各家庭で話し合っていただく方法で人権・同和教育部落懇談会を実施してきました。

人権尊重のまちづくりを推進するためには、地域住民の話し合いが大切だという思いから、今年度から、各部落での懇談会を再開しました。

今年度のテーマは「災害と人権」です。災害時などの非常時に助け合うために、日ごろからの地域住民のつながりの大切さについて考える内容にしました。アンケートでは「地域のつながりが希薄になる中、地域における助け合いの大切さについて住民同士で確認できた。」などの感想をいただいております。

開催時期は、町内一斉に10月～12月末を目安に開催しました。令和７年２月現在、開催予定の部落は、ほぼ終了し、数年振りの再開にも関わらず、町内156部落中、136部落（約87％）で開催される見込みです。世帯数では、町内全世帯5,410世帯中、1,381世帯（約26％）の参加がありました。地域のみなさまご協力ありがとうございました。



（事前研修会の様子）



（部落懇談会の様子）

【お知らせ】

部落問題について正しい理解を深める講演会

3月16日【日】　13:30~15:30

赤碕地域コミュニティーセンター　多目的ホール

講演会

入場無料
参加申込不要

『変容する部落差別』
～差別をつくりかえ、再生産するのは誰なのか？～

講師　阿久澤（あくざわ）　麻理子（まりこ）さん
（大阪公立大学人権問題研究センター教授）

●人権啓発事業「部落問題について正しい理解を深める講演会」を開催します。

部落差別をなくすために、私たちにできることは、まず部落問題について知ることです。そして、正しく理解することが大切です。みなさん講演会にぜひご参加ください。